

## 支援者のための研修会

支援に携わる医療・介護・福祉・行政・労働等の関係者を対象とし、若年性認知症の方の支援方法の習得と関係者の連携を図ることを目的に年1回研修会を開催しています。

開催回数	参加者数(延)
5回	221人



### 参加者から

- ・治療法、薬の処方、支援の実際や事例紹介があり、具体的なサービスを含めて知ることができた
- ・就労や経済的な支援が参考になった
- ・早期に繋がる方法や関係者の連携が重要だ等

## ネットワーク会議

支援機関においては、若年性認知症の人の支援経験が少ないため相互に課題を出し合い、情報交換して、地域での連携のあり方を協議しています。

開催回数	参加者数(延)
5回	195人

### 意見交換から

#### ●就労支援

- ・職場で支える仕組みづくりが必要
- ・働くことはどれだけ進行防止に効果があるか、認識することが大事



#### ●居場所づくり

- ・若年性認知症に特化した窓口やカフェは設けていないが、認知症カフェで対応している
- ・認知症カフェで精神保健福祉士による相談日を設けている

#### ●支援体制

診断から数年経って要介護状態になって相談に来る場合が多く、診断直後からのフォロー体制整備や早期支援が重要

## 啓発普及事業等

若年性認知症のことや当センターを広く知ってもらうために、関係機関に出向き事業紹介や活動報告を行ったり、リーフレット・ポスター及びハンドブックを作成し配布しています。

また、地域で行われるケア会議や認知症疾患医療センター等の会議に出席し、周知及び連携を図っています。



ご希望の方は、富山県若年性認知症相談・支援センターへお問い合わせください。当センターのホームページからダウンロードできます。

## 若年性認知症支援コーディネーターのつづやき

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちの生活は一変しました。気になる症状があっても「受診控え」をするケースが増加しているようです。ワクチン接種が始まりましたが、早く気軽に外出したり、受診したりできるようになればいいですね。若年性認知症のことで気になることがあれば、気軽に相談できるセンターでありたいと常々思っています。(H.N)

# 富山県若年性認知症 相談・支援センター

令和3年7月発行

## 第4号

5周年  
記念誌

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会  
富山県若年性認知症相談・支援センター  
〒930-0094 富山市安住町5-21 サンシップとやま5階  
富山県難病相談・支援センター内  
TEL: 076-432-7501 FAX: 076-432-6578

## 活動だより

### 5年間のあゆみ

当センターは、平成28年7月15日に開設し今年で5周年を迎えました。

開設当初に比べ「若年性認知症」に対する関心は高まってきておりますが、まだまだ発見や治療が遅れるケースが少なくありません。これからも関係機関との連携を図りながら、当センターの周知を図っていきたく考えています。

H28.7  
・サンシップとやま5階に開設し、若年性認知症支援コーディネーターを配置  
・センターリーフレット、ポスター及びホームページを作成



H30  
・「活動だより」創刊号発行(年1回)  
・「若年性認知症仕事の間(居場所)づくり支援事業」のコンサルテーション(3事業所)実施

H28.12  
・「支援者のための研修会」「ネットワーク会議」開始(各年1回)

R2  
・企業等・職場向けリーフレット作成  
・「ご本人ご家族のための交流会」にパートナーの協力開始

H29  
・「ご本人ご家族のための交流会」開始(年2回から順次増加)  
・「認知症カフェ運営関係者連絡会」開催  
・「障害者就労支援事業所における若年性認知症の人の受け入れに関する調査」及び「受け入れ施設の聞きとり調査」実施  
・「若年性認知症ハンドブック」作成

R3  
・「ご本人家族のための交流会」の名称を「土曜サロン」とし、隔月6回の定例開催予定

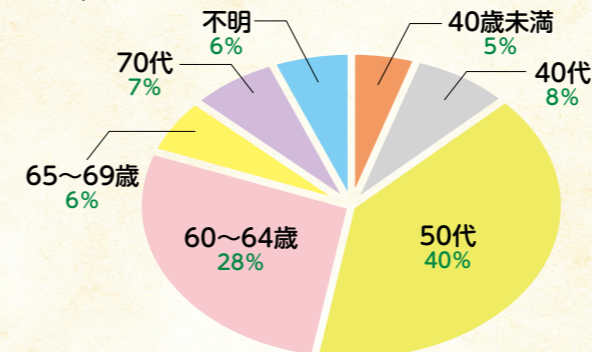
## 活動実績 開設時(平成28年7月)～令和2年度

### 個別相談・支援

相談者数	実数	延数
	176人	1,339人

#### 相談対象者の年代(実数)

50代が40%、60～64歳が28%と合わせて7割を占めています。

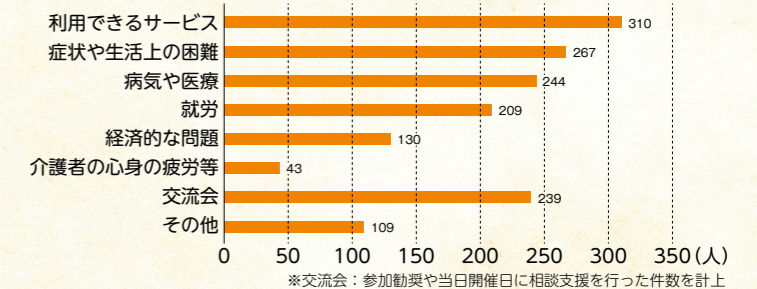


#### 相談者の内訳(実数)

家族や親族からの相談が約6割、本人からの相談が約2割です。

#### 相談支援内容(延数)

「利用できるサービス」が最も多く、次いで「症状や生活上の困難」「病気や医療」「就労」に関する相談が多くあります。



※交流会：参加動員や当日開催日に相談支援を行った件数を計上



## ご本人・家族の交流会 土曜サロン

家族でないといけない体験や悩みなどを自由に話し合いながら、情報交換したり、日頃の悩みを相談したり気軽な交流の場です。ご本人には、作品作りなどを通して楽しい時間を過ごしてもらいます。

若年性認知症の方は県内に点在しているため他の人の話を聞く機会が欲しいとの要望があり、平成29年度から試行錯誤しながら開催しています。今まで交流会の名称がなかったので、参加者みんなで「土曜サロン」と名付け、令和3年度からは、奇数月第3土曜日午後に定期開催予定です。

内容	開催回数	参加者数(延)
〈本人交流会〉 作業療法士等によるワークショップ パートナー（認知症看護認定看護師、作業療法士等）による支援	12回	62組 136人
〈家族交流会〉 情報交換（介護方法、福祉制度、医療等）		

### ご家族の声

妻が交流会に参加して作品を作る時、特にハサミを使うときは真剣そのもの、目が生き生きしています。随分と忘れっぽくなってきている妻ですが、まだ“集中力”が残っているのだなあ、と妙に安心してしまう自分。コロナワクチンのように早く治療薬が開発され妻に本当の笑顔がもどってくるといいな。

(T.Kさん/夫)



家族交流会



家族交流会

若年性アルツハイマーと診断されて3年たちました。私の一番の悩みは夫に車の運転を辞めてほしいことでした。廃車にするまで2年かかりました。介護保険を申請しても要支援1でありサービスを受けられません。今は支援センターや家族会のアドバイスでB型作業所に半日ですが毎日元気に通っています。

(Mさん/妻)



パートナーさんとハロウィンかぼちゃづくり

お一人でも多く、若年性認知症のご家族が心をオープンにして相談できるように、声を上げることができるようになります。また、社会に少しずつ理解が広まりますように。そして進行を感じる日々ではありますが、主人がたくさん笑ってくれますように。

(alohaさん/妻)

5年ほど前に娘が若年性アルツハイマー型認知症と診断されて今に至っています。娘が一人なのでそれだけが心配ですが、病気のことは仕方がないです。

(Hさん/母)

他の人の話を聞いて共感できたり、今の自分が悩んでいることなどを声に出して話すことで気持ちが楽になるのを実感しています。なかなか自分達のことを話すには勇気がいりますが、これからも参加していきたいと思います。

(やわやわさん/妻)

症状が進行した時のコミュニケーションの取り方がわからない。また介護する側が歳をとりつつあり、お互い今後どうなるのか心配です。(匿名さん/姉)



ランプシェードづくり

土曜サロンにおいて、今は症状の進んだ近況報告であるが、新薬によって早く明るい近況報告になるといいね！

(S.Mさん/夫)

### パートナーさんの声

- ・当事者の方に作品作りの場を提供させていただいています。いつもこちらが考えていた以上の作品が仕上がりが驚かされることばかりです。これからも充実した時間を過ごしていただけるよう関わらせていただければ嬉しいです。(作業療法士)
- ・みなさんと会話を楽しみながら作業活動を行わせていただいています。(作業療法士)



パートナーさんとマイトートバックづくり

### パートナーとは……

本人に寄り添い思いを受容し、一緒に時間を過ごし、本人がこの時間をどう過ごせばよいという不安を取り除き、発言しやすくなるようサポートします。

妻(59)はアルツハイマー、夫(私、61)はアルチューハイマーです。私は土曜サロンが楽しみです。当日は昼食を早めに済ませ、富山市南部の自宅から、妻と二人で富山地鉄バス(ひとり片道600円のところ、障害者手帳の提示でふたり片道600円に割引される)に乗り、会場に向かいます。サロンでは、他の家族の方々と貴重な情報交換ができます。本人は別の部屋でいろんな活動をさせてもらい、楽しく過ごしています。サロン終了後は、美術館や郷土資料館など、障害者手帳で割引がある施設を見学します。そして午後5時少し前にやきとり店前の行列に並びます。開店と同時に入店し、お腹いっぱい生ビールを飲み、焼き鳥をたらふく食べ、至福の時間を過ごします。その後またバスに乗って自宅近くのバス停で降り、千鳥足で帰宅します。

(H.K.さん/夫)



作品作成の説明を聞いています

- ・作業を通じ、感じていることを表現されることに気づかされることも多くあり、嬉しく感じます。またご家族の思いや支えも感じています。今後も交流の中でいろんなことを感じ、また気軽に相談できる支援者になりたいと思います。(看護師)
- ・物づくりを通して楽しい時間をすごせるよう、また介護の悩みが少しでも解消できるようサポートしていきます。(看護師)
- ・作業していく中で、それぞれの性格やこだわりを知ることができ、そこから家族のことや仕事のことなどお話しできたことがよかったです。笑顔を見ることができ嬉しい気持ちになりました。(保健師)

## 土曜・サロ・ン

ご本人や家族の方の参加をお待ちしています。また、パートナーさんの参加もお待ちしています。